

# 北山だより

北山湿地(池金町)は、岡崎市自然環境保全条例に基づく自然環境保護区に指定されています。湿地およびその周辺でのすべての動植物の採取等の行為は禁止されています。これに違反した場合は、30万円以下の罰金が科せられる場合があります。貴重な自然環境の保護にご協力ください。

## 北山湿地を守る活動

【5月の作業内容(21日(土)9時~正午) 参加20人】①A湿地奥の整備(使用していない柵・杭の撤去、除伐)②A湿地で新たに見つかったマルバアオダモ周囲の手入れ③G湿地のナンカイイワカガミ周囲の手入れ



A湿地奥の除伐作業

春から秋にかけては湿地特有の希少種たちの開花・活動期間となります。そこで湿地内に入る



バイカツツジ

ことは極力控え、湿地周りの整備が中心となります

♣A湿地では使用していない木道を撤去。その付近のあまり手入れされてこなかった一帯を除伐して



ササの葉に作られた幼虫の巣(セセリチョウの仲間)

明るくしました♣G湿地でもナンカイイワカガミ(観察不可)周囲が、やはり手入れが行き届かず、

樹木が生い茂って薄暗くなっていることから、これらを除伐し



マルバアオダモの整備

たり、ナンカイイワカガミを被圧している樹木のヒコバエを抜き取るなどしました♣北山湿地ではこうした定例の保全活動のほか、樹木調査も進められています。樹皮や葉の形などをもとに種類を特定し、判明したものには名札を付けます♣これまでは野草に関心が払われ、歩くときも下を向いてばかり。ところがふと見上げると湿地を覆い尽くす無数の樹木。はて、何という木だろうというところから始まった調査では、すでに約100



マルバアオダモ

種が確認されています♣その過程で、A湿地で

見つかったマルバアオダモ。希少種ではありませんが、北山で初めて確認され、春には房状の白い花が咲きますので、とりあえず周囲の環境だけは整えました♣梅雨に入り、水分がたつぷりで行き渡った湿地はミズゴケを中心に青々として、清々しく

美しいものです。雨上がりの湿地も一見の価値あり。

## 豊かな自然とのふれ合い

岡崎市は6月13日(日)、北山湿地で観察会を開催しました(雨天のため12日開催を順延)。



参加者は16人。これにおかげ湿地保護の会会員6

人がサポート役として付き添いました。講師は、同会の特別会員でもある、昆虫がご専門の大平仁夫先生(農学博士)、同じく植物がご専門の千賀敏之先生(元新編岡崎市史調査委員)が務められました。

参加者の多くは北山湿地を訪れるのは初めてで、「身近にこれほど豊かな自然が残されているとは」と驚いていました。

ササユリやバイカツツジ、トキソウやトウカイコモウセンゴケ、ミミカキグサ、そしてハッチョウトンボやヒメタイコウチ。里山や湿地特有の多種多様な植物や生き物たちとふれ合い、それぞれが持つ固有の特徴



や、生きていくのに必要な環境などを学んだ

皆さんは、この素晴らしい自然をぜひ残してほしい、大切にしたいなど、自然環境に対する意識が大いに高まったようでした。

《鳥川ホタル情報》鳥川ホタル保存会は毎日、ゲンジボタルの飛翔数を数えています。今年は5月末に始まり、6月初旬には200~300匹/日ほど。13日からは600匹を超え、15日には800匹余りを数えました。詳細はネットで「鳥川ホタルの里ほたる情報」を検索。※森の駅7月のプログラムは同ホームページまたは市政だより6月15日号をチェック。

## 北山湿地へのご意見ご感想

5月25日(水)、安城野草会の皆さんが北山湿地を視察に訪れました。以下は参加された方々にお願したアンケートに書かれたものです。

【安城野草会】平成19年3月設立。安城市内において、在来の野草を種から育て、種を採取し、最終的には河川の堤防などに還元することにより、日本の昔ながらの野草を各地に復元することを目的に活動している。

◆里山と湿地の散策にとっても満足しました。保護の会の方の説明がとてもうれしかったです。所々聞きにくかった部分がありましたので(後方にいたため)、拡声器を使用していただけたら良かったです。日頃、湿地の整備に力を尽くされていることを聞き、頭がさがりました。あり

シロバナカザグルマ



がとうございまして◆近くに住んでいながら、北山湿地を初めて知りました。空気がよく、鳥の鳴き声を聞きながらの観察会は楽しく満足でした◆岡崎にこのような湿地があり、いろいろな植物があるのに驚きました。参加できて良かったです◆観察会に参加でき大変喜んでいきます。次回はぜひギフチョウの季節に来たいです。しかし、幼虫が見られて良かったです◆知らないことをたくさん教



ウメモトキ

えてもらって楽しかったです◆初めて北山湿地に来てとても感動です。珍しい植物を見れて、説明も十分に聞くことができ、実りある一日でした。またぜひ来たいです◆周囲の木々や山野草等、自然の中で光を受け、理想的な環境を散策できて「ふるさと」を感じさせていただきました◆近くにこんなに自然が保護されている場所があることを知りうれしかったです◆良いところをゆっくり見れて良かったです。広くて良い所ですね。またみんなで来たいです◆初めてで勝手にわからず来ました。昼食までの間に休憩があれば良かったです。湿地の中では空気がとても澄んでいて良かったです◆丁寧な説明でとても良かったです。自然が管理されているけれど自然が残されていくのがとても良いですね◆説明を丁寧にいただいたのでよくわかりました。次はギフチョウのいる季節に来たいです。皆で食べる弁当を緑をいっぱい浴びてとても楽しく過ごさせてくださいました。ありがとうございました◆こんなに近くに整備された湿地があり、びっくりしました。また季節を変えて見学したいと思います◆初めて来ましたが、保護の会の方の説明がとてもわかりやすかったです。このようなところは管理がとても大変だと感じましたが、大切に管理してくださる方がいて、今日私たちがここに来ることができました。楽しい時間でした。

## きたやま歳時記⑪

### 来年のギフチョウのために

今年もあつという間に、待ちに待ったギフチョウの時期も過ぎ、今はもう蛹になっていることでしょう。季節の移り変わりは本当に早く、皆さんの頭からは、あの可憐で綺麗な



脱皮殻(上から) 幼虫 蛹化殻

春の女神の姿も、もう消えかけているかも。そして今はハッチョウトンボが主役になっているかも。しかし、蛹になったギフチョウは来年の春までに、長い時間をかけ春の女神になるために変身していくのです。その時のために、今年も食草であるヒメカンアオイをたくさん用意しておいてあげよう。

今年の北山湿地でのギフチョウの産卵数は1600個ほど確認されました、例年に比べかなり多いと思いますが、成虫になるのは数パーセントと言われます。

弱齢幼虫の段階で他の生き物・昆虫に捕食されるものもかなりいると思いますが、食草が少ないために終齢まで育つことなく死んでいく個体も多いと思います。

幼虫が蛹になるまでには、約10枚から20枚ほどのヒメカンアオイの葉が必要と言われます。前年移植したヒメカンアオイにも多くの産卵が確認され、うれしく感動しました。しかし、まだまだ食草が不足していると思われるので、今年も来年のために多くの苗を移植したいものです。(文と写真/おかざき湿地保護の会 柵木宗孝)



移植されたヒメカンアオイ